

地震の震度(気象庁震度階級)





震度4以上の揺れが予想された場合、全国瞬時警報システム(Jアラート)により防災行政無線で緊急地震速報が流れます。

震度と揺れの状況

<p>震度 1</p>  <p>屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p>震度 2</p>  <p>屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には目を覚ます人もいる。</p>	<p>震度 3</p>  <p>屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。眠っている人の大半が目覚めます。</p>
<p>震度 4</p>  <p>歩いている人のほとんどが揺れを感じ、眠っている人のほとんどが目覚めます。電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。</p>	<p>震度 5弱</p>  <p>大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。</p>	<p>震度 5強</p>  <p>物につかまらないと歩くことが難しい。補強されていないブロック塀が崩れることがある。</p>
<p>震度 6弱</p>  <p>立っていることが困難になる。固定していない家具が移動し倒れたり、ドアが開かなくなることがある。</p>	<p>震度 6強</p>  <p>はわないと動くことができない。破損・落下する建物が多くなる。大規模な地すべりや、山体崩壊が発生することがある。</p>	<p>震度 7</p>  <p>揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。耐震性の低い建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。</p>

雨による危険度のチェックポイント

1時間雨量による雨と被害の目安

<p>やや強い雨 10~20mm</p>		<p>ザーザーと降る雨。地面いちめん水たまりができます。長く続く場合は注意が必要です。</p>
<p>強い雨 20~30mm</p>		<p>どしゃ降りの雨。側溝や下水があふれ、小川の氾濫、崖崩れの心配もあります。</p>
<p>激しい雨 30~50mm</p>		<p>バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われます。</p>
<p>非常に激しい雨 50~80mm</p>		<p>滝のように降り(ゴーゴーと降り続く)、土石流が発生しやすくなります。</p>
<p>猛烈な雨 80mm以上</p>		<p>息苦しくなるような圧迫感があり恐怖を感じます。雨による大規模災害が発生するおそれがあります。</p>